

---

2021年度 第1回

郵博 特別切手コレクション展

ふるさと  
**故郷の郵便の歴史展**

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

郵政博物館における展示期間

2021年6月5日(土) 10:30-16:30

2021年6月6日(日) 10:30-16:30

クラウド展示期間

2021年5月8日(土)～6月6日(日)

---

## 国立銀行 (1)

近辻 喜一

明治の国立銀行とは、1872年（明治5年）の国立銀行条例に基づいて開設された金融機関である。当時の大蔵大輔・伊藤博文のもとで制度が創られた。

「国立銀行」とはアメリカの national bank の直訳であり、国が設立して経営した銀行ではない。金貨との交換義務を持つ兌換紙幣の発行権を持ち、当初は第一から第五の4行（第三は欠番）が設立された。

1876年（明治9年）、不換紙幣の発行も認められるようになると急増し、1879年までに153の国立銀行が開設された。銀行は設立順に番号を名乗っており、これを「ナンバー銀行」と呼ぶこともある。

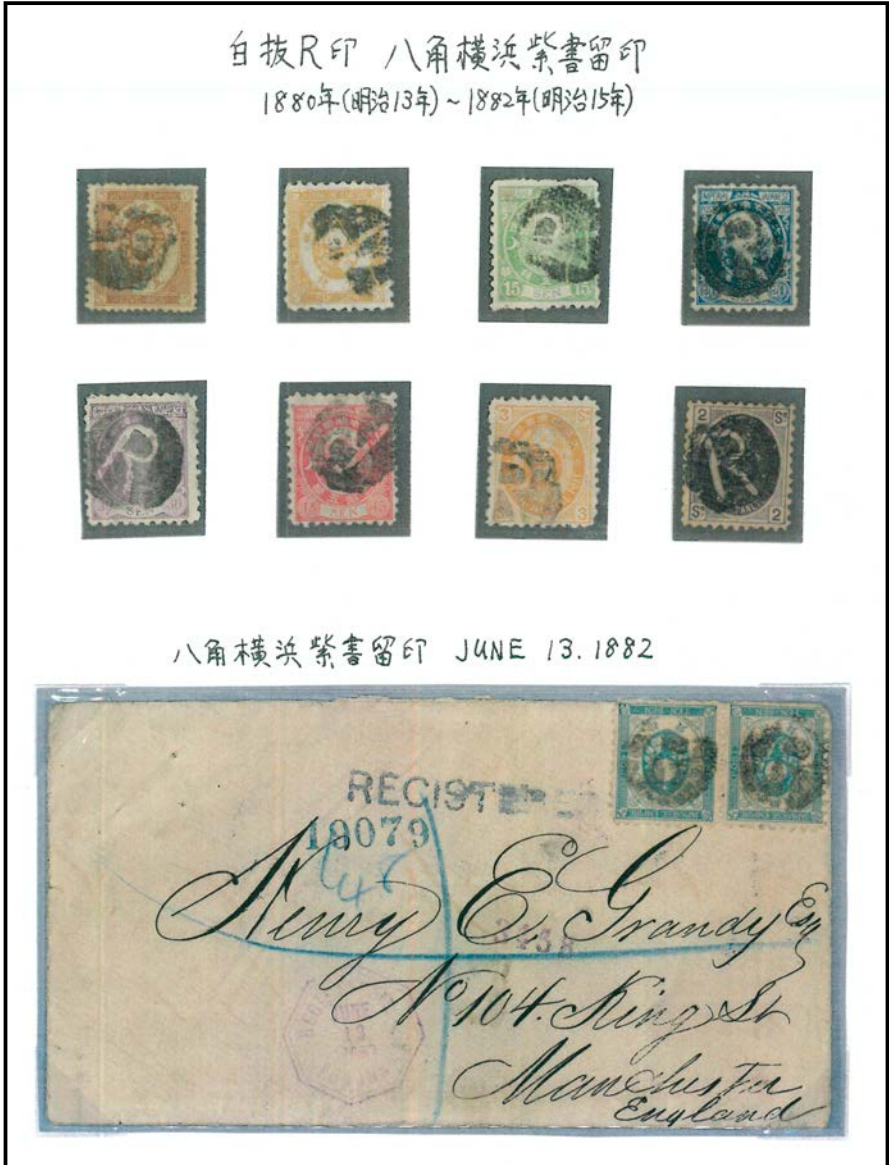
1882年に日本銀行が開設されると、国立銀行は民営化されて普通銀行になり、紙幣発行も日本銀行のみが行うようになった。



横浜の抹消印・証示印 (1)

城野 隆三

横浜の抹消印、証示印は種類が豊富です。同時期に複数のタイプが並行して使用され、抹消印と証示印の組み合わせも様々です。旧小判切手に使用された抹消印、証示印を展示してみました。



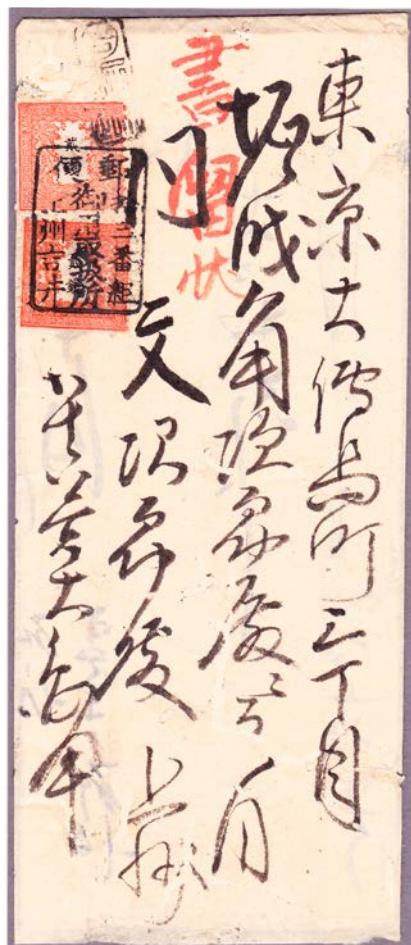
## 明治前期上野国差立の書留・金子入・別配達 (3)

設楽 光弘

上野国初期郵便印の収集を始めて45年。不統一印、記番印は全国展に出品、次は二重丸印と思っています。

しかし地元収集家には小局の珍印であっても他の方にはあまり興味を引くものではありません。そこで今回は不統一印から二重丸、ボタ印まで書留、金子入書状に限定し3F展示いたします。

明治10、11年度の群馬県統計によれば差立総数に対し書留便は1.5%、金子入書状は1.3%しか無く、どの地方でもこの特殊便の収集充実は困難です。是非華やかで見ごたえある切手多数貼、高額面貼カバーをお楽しみください。



## 千葉県丸一型日付印の集め方 (1)

永富 功

田辺猛さんの「小判切手の集め方」をきっかけに丸一型日付印を集め始めたのはいつの頃でしょうか。その後、ワ便や全国の丸一型日付印の収集にのめりこんで、JAPEX2018には誕生130年を1人で記念して「丸一型日付印」という作品を出品しました。

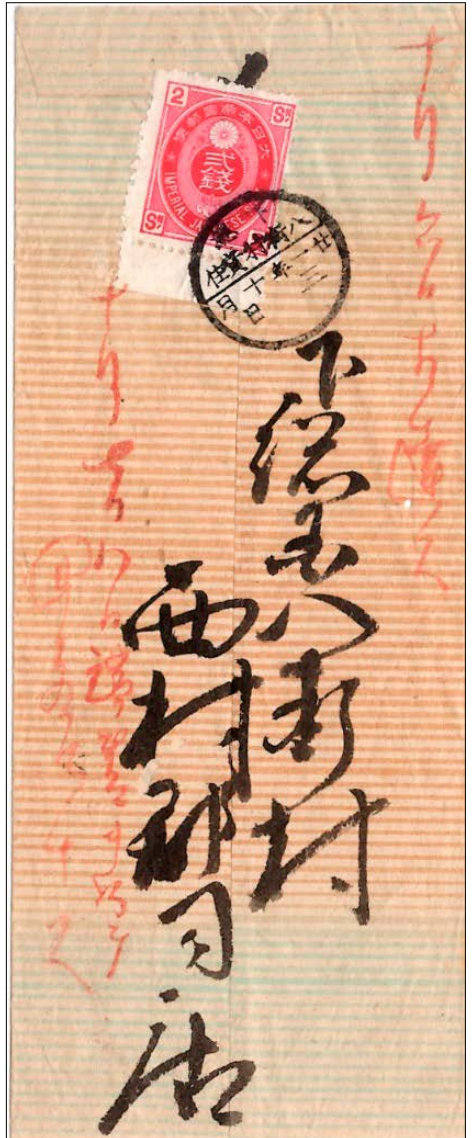
そして、今回故郷の郵便の歴史展に出品する機会をいただき、表題の作品を出品いたします。

地元の消印を集めることは、地元を知るいい機会になりますが、1フレーム16リーフでは、千葉県全体の丸一型日付印を示すことはできませんので、今回の作品ではいくつかの観点から丸一型日付印を集めるヒントをまとめています。

単純な形状の郵便印ですが、この時代だからこそ存在した変化やルートなど、さまざまなことをアイテムの一つ一つが語り掛けてくれます。

是非、それらを味わっていただくとともに、新たな収集にチャレンジしていただくきっかけになれば本望です。

なお、手元に置いて収集にご活用いただけるように本作品とリスト等をまとめた冊子 (@ 300円+送料) を頒布します。ご希望の方はご一報ください。 ⇒ [swimisao@yahoo.co.jp](mailto:swimisao@yahoo.co.jp)



# 名古屋のD・E欄★入り櫛型日付印(1)

石代 博之

櫛型日付印は、明治39年(1906)に一、二等局で使用が開始され、4年後の明治43年(1910)に三等局でも使用が開始されたが、最初の通信日付印規定では、無集配二、三等局の日付印は、D欄の櫛の中に星が白抜きで描かれていた。

本コレクションは、上記テーマを名古屋に絞り展開した研究コレクションである。

### 名古屋のD・E欄★入り櫛型日付印

◆概要  
明治39年3月1日、公達第39号により、二等局で櫛型日付印が使用され、明治43年1月1日、告示第1285号により三等局でも使用された。無集配の二、三等局にして集配及び区別を行うものは櫛のみを用いD欄入りを、他の名物長くして櫛内に挿入し終わると半は半日櫛内に挿入、区別、府縣名又は地名の一部を入れE欄入りを表示しており、地名が七文字を例示している。

名古屋では、無集配の二等局が1期、三等局が3期存在する。この内、地名が七文字は4期存在し、D欄入りは2期、E欄★入りも2期確認できた(右表参照)。

E欄入りは告示に記載がないため、地名が七文字以上のもの検索と、実例による櫛型日付印の確認が必要であり、確認と実証は専ら同輪である。

◆構成

期	年月	郵便局	区別	無集配	櫛型日付印	区別欄	備考
1期	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治39年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
2期	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○
	明治40年3月1日	名古屋郵便局	無集配	○	○	○	○

### 1. (1) 名古屋笹島

第1期有3期・書留7紙・配達証明3紙=13紙

名古屋笹島  
☆明治45年2月12日  
郵便  
紙7-5

◆構成

公達第39号第十九條 第二號第一項  
無集配ノ二等局ハ(C)ノ櫛型二枚ハ  
第二號 無集配三等局ニシテ市制及區制施行地ニ限ルモノ  
ハ局名ノミヲ用弁スル  
局ノ名稱長クシテ欄内ニ挿入シ能ハサルトキハ半月型欄内  
ニ市、區名、府縣名又ハ局名ノ一部ヲアルルコトヲ得  
(C)(D)ノ欄加ニ枚ル

通達第229号三號  
一、二等局電報局用電話局用日付印ハ三十九年一月一日ヨリ實際ノ買込アリテ以下製作中

上記の「公達」及び「通達」に基づき、明治三十九年一月一日より、無集配の二等局でD欄入りの櫛型日付印を、「名古屋笹島」で使用している (右表参照)。

2 / 16

\* 出品者の石代博之氏は、本作品の本展覧会への出品を楽しみにしたまま、2020年1月19日に逝去されました。本作品は、ご友人の長田伊玖雄さんと、並びにユキオスタンプ社のご好意で、本展覧会での展示ができませんでした。

## 群馬県の鉄道郵便印（停車場印～丸一型印）（2）

森下 幹夫

今でこそ郵便を鉄道で運ぶことは無くなりましたが、かつては鉄道輸送が主流の時代があり、直接郵便車で郵便物を処理するための専用の郵便印も使用されました。

この展示では群馬県の鉄道郵便印のうち、明治期（30年代まで）のものを紹介します。

線路上を移動する郵便車で使用される郵便印に関し、群馬県の定義は、日付印の区間名に群馬県の地名が表示されているものとししました。

停車場印に関しては、差出地を示す地名印であり群馬差出で間違いありませんが、丸一印については、差出地、配達先によっては全く群馬県を通過しないものもあります。

本作品は、それら群馬県を通過していない使用例を含みますが、単に郵便印別に並べるだけでなく、差出地や経路等も意識して作成してあります。



## 甲斐国 二重丸型日付印 アラカルト (1)

穴戸 俊介

小判切手を集めているうち、何となく集まってきたものを並べました。特に珍しい局も高価な品も含まれてはいません。

甲府局では様々な印影が観察でき、また使用時期も入り組んでいると、先輩収集家は教えてくださいます。

ここに示した印影は明治 19 年 11 月に大型ボタ印の使用開始直後、証示印として用いられたものですが、どういう訳か便号が抜けています。おそらく入れ忘れと思いますが、これを見ると、年、日と便号欄を隔てる中黒の点は便号活字の両脇についていたらしいことが確認できると思います。



甲府 1886 年 11 月 12 日 便号空欄→  
信濃・下諏訪 11 月 13 日



## 明治の東京・深川 郵便局ぶらり散歩 (2)

鎌倉 達敏

明治年代、東京深川には、16の郵便局（名称は異なりますが）が存在し、明治末までに各局変遷が有り、12局になりました。各郵便局から発信された郵便物は、全国に残されており、この展示でも各局の明治時代の代表的な使用例を紹介します。

一方、郵便局自体は、各局の変遷、関東大震災及び東京大空襲により、かつて所在した場所には、存在していません。そこで、明治時代の地図をたよりに、現代地図と照合しながら、かつて郵便局が存在した場所をめぐる「郵便局ぶらり散歩」をする事にしました。

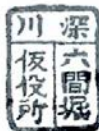
現在の周辺の状況を写真で伝えるだけでなく、周辺の新旧名所・旧跡もまわることにします。

### 明治の東京・深川 郵便局ぶらり散歩

### 北深川局

- 北深川郵便局
- ・明治5.9.1  
郵便仮役所として設置  
設置名称 「深川六間堀」
  - ・明治8.1.1  
郵便分局に改定
  - ・明治14.2.-  
「北深川」と移転改称  
(1.26火災により焼失のため)
  - ・明治16.5.23  
郵便支局に改定

証示印 角型朱印  
「深川六間堀仮役所」



大和国宇陀差立 深川宛  
付箋 区扱所戸籍取調  
候得共名宛無  
之趣ニ付継戻送二候也  
七月十五日 北深川



◎北深川郵便局  
二重丸型局所印  
金子入書状金50銭入

深川西六間堀差立  
飯田町宛

東京N2B2  
明治14年4月27日と  
八花弁抹消



## 不統一印を愉しむ (2)

立山 一郎

十数年前に郵趣の世界を知り、そんなときに先輩諸氏の作品や郵趣文献を見て、不統一印カバーに魅せられました。

明治初期に郵便ネットワークが全国に拡大して行ったときに、全国の各郵便取扱役が独自の発想で郵便印を調製しました。角形印、箱形印、丸型、二重丸印、三角印などヴァラエテイに富んだ抹消印、証示印、日付印などが登場し、また、その印色も黒色、朱色、青色などが使用され、達筆な筆使いと相まって美術品といっても良いような魅力的なカバーが残されています。

当初は、肥後国が中心でしたが、九州各地に広げ、さらに全国各都道府県について1県2通を目標に収集を始めました。しかし、東日本各地については、まだ、ほとんど収集できてない状況です。

従って、まだ蒐集の過程ですが、今回は、西日本中心を中心に、これまで蒐集した全国41局の不統一印を展示することとしました。不統一印の魅力を一緒に愉しんでください。

## 伊賀国消印 (4)

須谷 伸宏

本作品は、伊賀国(現 三重県北西部)における明治期の消印を不統一印、記号入番号印、二重丸型日付印、丸一型日付印、縦書丸一型日付印の順に展開して、局毎に整理し分類を行った。

伊賀国の使用例は残存数も少なく、大局である上野、名張以外の消印は大変希少である。本作品では、局毎の紹介に留まらず、二重丸型日付印、丸一型日付印において印影のタイプも示した。



## 三河国岡崎—飛脚と郵便（1）

祖父江 義信

三河国岡崎は徳川家康の生誕の地であり東海道の宿場町です。この作品は三河国岡崎の飛脚及び初期郵便印（大型地名入検査済印と不統一印）を紹介する作品です。

岡崎宿では安永2年（1773）に、三度飛脚取次所として大竹屋茂左衛門、巴屋（樋口）与次右衛門、大坂屋平左衛門が飛脚問屋の営業をしています。文政9年（1826）には樋口与次右衛門と服部専左衛門が、幕末の文久元年（1861）には樋口与次右衛門と服部小八郎が定飛脚問屋となっています。

はじめに2軒の定飛脚問屋の店判が押された飛脚書状と受取証を示しました。受取証には干支が書かれているので、年代を推定することができます。図に示した飛脚書状には、服部小八郎と樋口与次郎併記の付箋が付いており、飛脚問屋が合併していたことが分かるものです。

明治4年（1871）3月1日、郵便創始と同時に岡崎郵便取扱所が開設され、初代郵便取扱人には、樋口与次郎と三橋弥太郎の二人が就任しました。この翌年、抽選によって三橋弥太郎が郵便御用取扱人になり、明治8年（1875）に岡崎郵便局（三等）の初代郵便局長となりました。

初期郵便印の地名入大型「岡崎検査済」カバー、分銅型不統一印「岡崎」カバーと角型不統一印「岡崎検」を切手とカバーを紹介します。なお、三文字「検査済」カバーは記録があるものの未見です。



## 豊後国の郵便路線の発達と初期郵便 (1)

桑原 康雄

明治5年1月に東九州の郵便ルートとして、豊前・小倉から中津まで郵便路線が延長された。豊前から豊後に通じるルートは当初、豊後・日田を経由する山間ルートと豊後・立石を経由する海岸ルートが検討されたが、明治5年2月に豊前・宮園を経て豊後・日田に初めて郵便路線が開通した。

この書状は開設当初の明治5年8月7日に豊前・行事から豊後・日田宛に差し出されたものであり、豊後国宛の最古データと思われる。豊前・行事より豊後・日田までは約16里であり、料金に相当する龍100文切手が貼られている。

抹消に使われている篆書印は豊前・行事の郵便取扱人である進祐造の印証札にも使われている「英憲」であるが、字体はやや異なる。差出人の千原真古人は日田・豆田町豪商・丸千・千原幸衛門の三男で文人、号は夕田。



## U 小判切手と二重丸型印 (1)

平尾 勉

二重丸型日付印(二重丸型印)は、明治6年4月より3府5港の官製郵便局より使用が始まり明治8年末には全国の郵便局でも使用が始まって、明治21年9月1日(朝鮮は22年2月)に二重丸型印の不合理を解消した、丸一型日付印に代わる迄の間15年間に渡り使用された。

最初にN1B1型印が現れ、郵便局の等級や便数等により、表示される因子により様々な型式の二重丸型印が現れた。

U小判切手が発行された、明治16年1月1日から明治21年8月31日(朝鮮は22年1月迄使用)まで抹消印として使用された二重丸丸型印は下図に有る14型式で、DKN3型を除いた13型式の使用例(dk型は単片のみ)を展示する。



## 練馬 (2)

吉田 敬

郵便・通信の時代の練馬は、江戸時代に整備された川越街道の下練馬宿に始まります。譜代大名や親藩の松平家らが入封した川越藩は重要拠点であり、川越街道の通行量も多かったと思われませんが、下練馬宿近辺の書状は珍しいものです

明治 11 年に北豊島郡が発足して以降の郵便でポイントとなるのは、(1) 昭和 7 年の板橋区としての東京市編入から 15 年後の「板橋からの独立」までの期間と (2) 昭和 5 年の東京第一陸軍造兵廠練馬倉庫建設及び昭和 17 年の成増陸軍飛行場の建設に伴う軍事関連郵便 (軍事・APO・自衛隊) です。

2 年前「第 3 回いずみ展」にて展示したコレクションに、その後入手したマテリアルを追加しました。



特 定 非 営 利 活 動 法 人

# 郵 趣 振 興 協 会

Society for  
Promoting Philately

## 第5期会員の募集を3月より開始します！

末長くフィラテリーを楽しめる仕組み作りをする公益郵趣団体です。2017年から始まった活動はようやく5期目！オンライン郵趣例会の振興活動が目立ちますが、リアルでも、郵政博物館との連携を基に遂に全国切手展を主催できるところまで来ました。

ところで、スタンペックスジャパン 2021 の場合、例えば5フレーム作品の出品料は 15,000 円ですが、会員は4割強のディスカウントが適用され、8,500 円に減額されます。

それから、2021年4-6月期に開催予定のWEBセミナー（有償）チケット料金は千円ですが、会員には無料で一枚が配布されます。

公益郵趣団体ではありますが、少しずつ特典を拡充しています。是非第5期から会員となり、我が国における郵趣振興にご協力いただけませんか？

【第5期（2021年4月－2022年3月）正会員・賛助会員 募集要項】  
簡略版（詳細資料は <http://kitte.com/> でご覧いただくことができます）

### 1. 年会費：

正会員 1口 18,000円（何口でもご加入可）

賛助会員 1口 6,000円（何口でもご加入可）

\* 期中のどこから加入されても同額です

総会議決権の有無が、正会員（議決権あり）と賛助会員（議決権なし）の違いです。

### 2. 正会員・賛助会員（以下「会員」）の特典

- (1) 協会主催および協会が関係する各種行事への優先参加およびご優待
- (2) 「競争切手展データベース」へのアクセス・閲覧
- (3) 「郵政博物館 特別切手コレクション展」出展者負担金の減免
- (4) オンライン郵趣例会支援サービスのご提供

マイスタンプEDIAにてお申し込みいただくことができます。インターネットにアクセスできない方には、詳細資料・振替用紙を郵送しますので、ご連絡ください。